



学校法人 クラーク学園 和泉短期大学・和泉福祉専門学校 **izumi NEWS** Vol.2 (2009年8月)



2009年度 聖句

わたしは弱いときにこそ強い
(コリントの信徒への手紙 ニ 12章10節)

和泉福祉専門学校



いずみちゃん クラークくん
(クラーク学園和泉短期大学のマスコットキャラクター)

izumiニュース Vol.2

和泉短期大学 広報渉外・庶務ユニット
発行責任者 理事長 深町正信
〒229-8522 神奈川県相模原市青葉2-2-1
TEL.042-754-1133(代表)
URL:<http://www.izumi-c.ac.jp>

特集

和泉の歴史と専攻科開設

学校法人 クラーク学園
和泉福祉専門学校 校長 豊福義彦

izumi TOPIC 和泉短期大学 学長挨拶 伊藤忠彦

- 新任教職員紹介
- 文部科学省「学習支援推進プログラム」に選定されました
- 日本キリスト教児童福祉連盟総会・研修会を開催して
- 短期大学の進路状況報告
- 2008年度 決算書概要
- 2009年度 予算書概要
- 2010年度 入試情報
- 人事報告

特集 和泉の歴史と専攻科開設



学校法人 クラーク学園
和泉福祉専門学校 校長 豊福 義彦

和泉福祉専門学校は2010年3月末日をもって閉校し、2010年4月1日に和泉短期大学専攻科として新たな出発をします。この専攻科では、保育士資格を有する人を対象に1年制の介護福祉士国家資格の養成を行います。

深町正信氏が昨年10月に本クラーク学園の理事長就任にあたり、私たち教職員に向けて語られた挨拶で、神学者ラインホールド・ニーバーの有名な祈り「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。」の言葉を引用されて、今日私たちの学園が歴史的に大きな転換点に立っていることをご指摘されました。(詳しくは izumi news 創刊号2009年5月を参照して下さい。)

私たちはこの和泉福祉専門学校の短期大学への改組にあたり、今一度わがクラーク学園の歴史を振り返りつつ、学園の普遍不撓「愛と奉仕」の建学精神と、時代社会のニーズに応じた変化適合の歩みを続けている実際を簡潔に明らかにし、このような新たな歴史的転換期に立つ現状から将来を展望する指針の一端を述べたいと思います。

略歴

1935年生まれ
1968年4月 社会福祉法人バット博士記念ホーム 児童指導員として勤務
1971年4月 学校法人クラーク学園和泉短期大学専任講師・助教授・教授
1995年4月 西南女学院大学保健福祉学部教授
2000年4月 滋賀キリスト教大学生活科学部教授
2007年4月 学校法人クラーク学園和泉福祉専門学校校長

1 施設職員の現任訓練から始まったクラーク学園の歩み

学校法人クラーク学園の由来は、第二次世界大戦で敗戦国となつたわが国の児童救済のために、米国の世界児童救済団体であるCCF(Christian Children's Fund, Inc.)の責任者であったキリスト教宣教師J.C.クラーク博士(J.Calvitt Clarke)が中心となって東京世田谷に直営施設のバット博士記念センター児童養護施設と職員養成の事業を起こしたことによる起源をもちます。なかでもこの職員養成の事業は、当時のわが国では戦争で親を失つた子どもたちの世話をする施設職員の養成が喫緊の課題でした。戦後の日本の復興にララ救援活動として尽力し客死されたカナダ宣教師バット博士を記念して1955(昭和30)年9月に建設されたバット博士記念センターに、先ず東京の下町にある愛隣団育児部で生活する子どもたちを、世田谷の自然豊かな広大なセンターの半分の敷地に新築の四つのコテジシステムの独立した家庭舎に移して始められました。一方その2年後の1957(昭和32)年に残り半分の敷地に、当時としては近代的な八角形で2階建ての職員養成のための研修施設を建設し、まず施設職員の現任訓練の研修施設として教育事業が始められました。この教育事業は日本の各地の児童福祉施設で生活する子どもたちが独り立ちできるように、世話をする職員特に保育士(当時は保母)や未資格職員の教育訓練を年間平均4回の現任訓練として行われました。



クラーク博士
Dr.J.Calvitt Clarke
(CCF初代総主事)

バット博士
Dr.George Ernest Bott

2 現任職員の訓練から玉川保母専門学院に

この児童福祉施設に従事する職員の現任訓練は、1956(昭和31)年に第1回の研修が7日間開催されたのを始めに、5年間にわたり合計20回、それ年度毎に平均して3回から4回開催され、一度の研修に3日から7日間にかけて開催されました。全国の児童養護施設や知的障がい児施設の職員を対象に、当時わが国の児童福祉関係の著名な実践家や大学研究者並びに牧師や行政関係者を講師として招き、施設職員の日々の児童処遇の悩みや課題を探りあげ解決への道筋を図りつつ、再び施設の現場に戻り実践するという研修が続けられました。これらの研修経験を積み重ねていく中で、児童の生活の日々に直接接する保育者の教育訓練の必要性を認識するようになって、組織的に教育活動を展開する玉川保母専門学院の設立に至りました。

1960(昭和35)年に新しく設立された玉川保母専門学院には、遠くは北海道や沖縄・九州の各地から地元の関東近県からもキリスト教主義にたつ各種児童福祉施設に従事する保母資格取得を希望する職員が集い、また児童福祉に関心をもち施設で働きを望む高等学校を卒業して入学を希望する若人が増加してきました。第1回の入学者は募集人25名のところ22名が入学し、学生は全員が学生寮で生活し2年間の勉学に励み、保母資格を取得しその殆ど卒業生は派遣してきた施設の職員となり、また専門学校は希望を抱いて各種の児童福祉施設の専門職保母として世に送り出しました。このように玉川保母専門学院の教育活動は6年間に亘り続けられました。

3 CCF援助活動から三つの自立した福祉活動への歩み

これまで子どもの児童養護施設バット博士記念ホームと施設職員の現任訓練の研修並びに玉川保母専門学院の運営に関しては、米国CCFが直営施設としてその財政的負担の殆どを担っていましたが、わが国の社会的安定と経済的成长と共に社会福祉法の法的整備も相俟つて経済的負担を米国の善意だけに頼るのではなく、むしろ自立への道を模索することが私たち日本の採るべき道ではないかとの議論が起り、『受けけるより与えるが幸いなり』『聖書ルカによる福音書6章38節・使徒言行録20章35節』の言葉通り、これまで受けた数多くの精神的・財政的支援に感謝しつつ、米国CCFの援助活動に倣つて受けた援助活動を三つの部門に分けて自主自立の道を歩むことにしました。その一環として一つは東南アジアで援助を必要とする国に向けることが検討され、フィリピンで貧しさのため学校へ行けない子どもたちに現地のカトリック教会と協力してスポンサーシップの支援を始めたのです。二つ目はバット博士記念ホームについてはわが国の児童福祉法の下で運営を行い、三つ目の玉川保母専門学院の施設職員養成の教育活動は、当時の文部省の管轄の下で和泉短期大学へと発展していくことになりました。

4 玉川保母専門学院から和泉短期大学児童福祉科へ

玉川保母専門学院を新設和泉短期大学へと改組転換するとともに、当時の保育者養成の社会的ニーズが急速に高まり入学者も次第に増加してきました。1965(昭和40)年4月第1回の入学生38名に始まり5年後には179名、さらに5年後の1975(昭和50)年には258名に及び、学生数の規模が急速に拡大してきました。このような拡大の背景には二つの大きな理由がありました。一つは乳幼児保育ニーズの増加と幼児教育の充実のために社会的ケアの必要性に対応して、入学した学生には保母資格と幼稚園教諭の両資格免許を得ることが出来るようにしたこと、もう一つは米国CCFからの財政支援が終結したことによる大学の財政状況が逼迫しつつあったことから、入学定員を当初の40名から250名に増やすことにしました。手狭になつた学園キャンパスは隣接地を借地してまでも定員増を図らざるを得ませんでした。このようにして将来の展望をはかるという理事者側の考えに沿い、クラーク学園は自然豊かな世田谷の一等地から新天地を求めて現在の相模原の地に移転することになったのです。

5 新天地相模原での新たな挑戦～高齢者介護の道と社会福祉士への試み～

和泉短期大学が相模原の地に全面移転してこれまでの基礎確立期から新たな発展への歩みが始められました。移転して5年目の1980年に創立25周年記念が開かれた際に、初代学長であり当時理事長であった中島武夫氏のかねての念願であった高齢者のためのケアワークの必要性を具体的に推進する計画が1981(昭和56)年に立てられ、高齢社会の到来に備えて後任の伊藤忠利理事長の元で新たに建設された新校舎において、わが国で最初の和泉老人福祉専門学校(後に和泉福祉専門学校と改称)が1985(昭和60)年4月に創設され新入学生を90名迎えて出発したのです。この和泉老人福祉専門学校の創設は全国でも先例がないために、わが国がやがて高齢社会を迎えるにあたって、当時の厚生省社会局は本学園を訪ねて介護職員養成のための教育計画を立てるためにカリキュラムや教育内容について聴取し必要な資料の提供を受けて、その後国会で成立した1987(昭和62)年の「社会福祉士及び介護福祉士」法の介護福祉士養成のモデルともなりました。その意味で私たちの和泉老人福祉専門学校の介護教育は、わが国のパイオニアとしての誇りを保っています。その後毎年20年間にわたり100名以上の卒業生を高齢者施設や障がい者施設に、介護を担う専門職員として社会に送り出してきました。

一方和泉短期大学児童福祉学科では、将来の展望の一環として1987年に社会福祉分野で働く従事者の専門性を高めるために前述した「社会福祉士及び介護福祉士」法に基づいて、児童福祉分野の領域で働く職員特に児童指導員や保育士がこの社会福祉士の国家資格取得の受験資格への道を拓くために、保育士とともに卒業後2年の実務経験を積んで社会福祉士の国家資格が取得できるカリキュラムに改定し、社会福祉Ⅰコース、社会福祉Ⅱコース、児童福祉コース、幼児教育コースの四つのコースを設定し、入学した学生が自らコースを選択し将来の進路に備えるという改革を行いました。その後社会福祉士養成の4年制大学が増加するのに伴い、社会福祉コース選択の学生は次第に減少し、コース制選択の制度を廃止するに至りました。

6 専門学校の新たな試練と展開

これまで述べてきたように、クラーク学園は時代の変遷とともに建学の精神を一貫して堅持しつつ、社会ニーズに対応した発展を遂げてきました。このような中で和泉福祉専門学校は2010年3月末日をもって閉校し、2010年4月1日に和泉短期大学専攻科として、養成校で保育士資格を取得した方を対象に介護福祉士国家資格の養成を行うための新たな出発をします。このような改組転換を余儀なくされたのには、言うまでもなく今日の介護をとりまく社会の厳しい環境があります。

昨年は定員100名のところ応募者は49名、昨年は定員を40名に減員しても応募者は34名でした。このような背景の一つに、少子高齢社会の中で18歳人口の減少傾向が鮮明になり、高校教師の進路指導もあって受験生の多くが4年制の大学志向へと向かっていること、さらにもう一つの要因として挙げられるものに介護業務に関する労働条件の厳しさがあります。一般的に3Kといわれる現実の姿がこの職業を学生たちはじめ一般市民も敬遠している傾向にあります。しかし私たちの専門学校を卒業して介護福祉士として高齢者施設や障がい者施設に従事している一人ひとりは、また現在学んでいる学生も自らこの道を選んだことに限りない誇りをもって、介護の働きに従事することに喜びをもつて臨んでいるという事実があります。

今日超高齢社会の到来とともに高齢者やハンディキャップを持つ人の社会的ケアを必要とする現実は、いよいよ待ったなしの状況を呈しています。2000(平成12)年に施行された介護保険法並びに5年後に改定された改定介護保険法が社会的介護の更なる充実をはかる必要性を指摘しています。

介護教室のお知らせ－保育士のみなさまへの介護の理解－

このたび、専攻科設置準備室では、来年度の専攻科介護福祉専攻(認可申請中)の開設に伴い、次のような研修内容を計画しました。

日時 | 2009年10月31日(土)、11月28日(土)両日ともに14時～16時

場所 | 和泉福祉専門学校

内容 | 介護とは何か、介護職の国家資格である介護福祉士がどのような働きをしているかを理解します。また体験学習を通して介護技術を学びます。

和泉短期大学等の保育士養成施設で保育士資格を取得された方々など、介護に興味のある方ならどなたでも参加できます。

詳細については、和泉短期大学専攻科設置準備室(和泉福祉専門学校内)にお問い合わせください。(TEL042-753-2311)

和泉短期大学学長挨拶

学びつづける意味=生涯学習=



学長 伊藤忠彦

「生涯学習」ということで、それまで私が抱えていた考えが、大きく変えられた本があります。2002年、役職上から「かながわ生涯学習推進協議会」の委員になり、横浜駅近くにある、県の生涯学習情報センターの資料室から、借りて読んだ「生涯教育入門:ボール・ラングラン・全日本社会教育連合会・1965年」です。

それまで、私は生涯学習を、公共機関や、大学などで、市民に開放して開講される、講座の学びぐらいしか考えていました。

文化講座、教養講座で提供される学習、いわゆるカルチャー・センター事業、市民大学などが短期間に提供する知識と技術の学習といった世界です。

忙しく、生活のために消費される身体と時間、これが一段落し、時間ができて、余裕のある人が、より豊かな生活、より質の高い生活を目指して取り組む学習、と言った程の理解です。

しかし、この本を開くと、まず目に入ってきた、第1章の「現代人に対する挑戦」と言う題に驚きました、読み進むと、この題が単なるこけおどしではなく、確かに、この世紀に生きている私たちは、これまでの人々が経験したことがない、大きな挑戦(危機と言い換えてよい)に直面していることに気づかされ、よ

く考えもしないで、生涯学習にもっていた考えが、どんなに浅薄だったかを思い知りました。

ラングランは、20世紀以降に生きる私たちは、それまで蓄えてきた学びや経験によって手にした知識では理解できないほどの、大変化を呈する、物的、知的、道徳的世界に直面させられている。しかも、大きな変革、変化の波は、今や、10年ごとに(急速かつ繰り返し)襲ってくると言うのです。

それに加えて、私たちの寿命は飛躍的に延びているのです。特殊な分野で仕事している人だけではなく、普通の生活に追われる人でも、それまでに、手にしてきた知識や経験や技術、習慣ではやっていけない変化と言う危機(リスク)、しかも、多様な危機に直面させられるのです。

このことを考えると、私たちは否応なしに、これからも、リスク回避のために、学び続けなければならないのだと思われるのです。

私には、この知識と技術が、また資格がある、年金や介護保険制度に守られている、このことすら、直面する危機回避に有効であるのかが不透明な時代になりつつあるのです。

新任紹介 (2009年度)

希望に生きて

准教授 松浦 浩樹

和泉短大のミッションステートメントに感銘を受け、使命感を感じつつ、この大学に参りました。これまでの保育現場での経験を生かしつつ、新たに研究を重ね、保育者養成と教育研究に専念したいと思います。学生の皆さんと共に、地域のみならず、保育・教育・福祉界に貢献できるような学びと人材を育成したいと燃えています。

まずは保育者を志している皆さんが学生生活を充実させ、将来、子どもを中心とした保護者や地域に生き生きした希望を与えることができるような社会人になってほしいと願っています。これから関わる人たちからの信頼を得られ、その信頼に値する「和泉人」になるために、私も共に学んでまいりたいと思っております。

略歴

1965年広島生まれ(現在、神奈川県在住)。1993年青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程終了。同年4月青山学院幼稚園教諭に就任(院長・園長:深町正信)。2005年青山学院幼稚園を退職。聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師。聖学院大学子育て支援センター運営委員・保育スタッフ。2009年和泉短期大学児童福祉学科准教授。



保育の世界へ導かれ

助教 野尻 美枝

今春より実習・ボランティアセンターに勤務させて頂いております野尻美枝と申します。先日、私が通っている教会で子どもたちのお誕生日をお祝いしました。

『うまれるまえからかみさまに まもられてきた ともだちの たんじょうびです おめでとう』(こどもさんびか116番)

私も幼稚園へ勤務しておりました時には、子どもたちとこの讃美歌をよく歌ったものでした。

保育者は、生まれる前から神さまに守られてきた生命(いのち)にプロフェッショナルとして関わるとしても光栄で魅力的な、それでいて重責を担った職業であると思います。その保育の世界に心をいたいで入学された和泉短期大学の学生のみなさんに、実習・ボランティアセンターの教員として少しでもお役に立てたらと思っております。この導きに感謝し、心を込めて尽力させて頂きたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

都内私立幼稚園にて勤務した後、JICA青年海外協力隊に参加。エジプトで現職保育者研修等にたずさわる。東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科人間科学専攻幼稚教育コース修了。都内にある保育専門学校専任講師を経て現職に至る。



新たな一步

専任講師 斎藤 純

2009年3月31日まで、実習・ボランティアセンターにて勤務させて頂きました。4月1日からは新たな立場で、毎日を過ごさせて頂いています。グループアドバイザーとして学生と向き合うことも、多くの授業を担当することも、とても緊張しながら今年度をスタートさせました。しかし、少しづつ緊張が和らいで来ています。本来は学生に寄り添い、支える立場であるものの、私自身が学生に支えられていることを強く実感しております。母校にて新たな一步を踏み出させて頂いたことに感謝しつつ、少しでも学生たちの力になれるよう、努めて参りたいと思います。

略歴

和泉短期大学卒業後、川崎市立白鳥保育園勤務。その後、病後児保育ディーサービスでの勤務を経て、池田小児科附属保育園ハグミーナーサリー主任保育士として開園準備から携わる。2002年4月大東文化大学文学部教育学科入学、2006年3月卒業。2006年4月千葉大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻入学、2年次となる2007年4月より、和泉短期大学 実習・ボランティアセンター助教として勤務。2008年3月大学院修士課程修了。



よろしくお願いします

保健室 保健師・看護師 西土井 広美

大学の保健室は初めての職場でしたので、就任当初は緊張した毎日を過ごしておりましたが、和やかな校風、教職員や学生の皆さんのにこやかな挨拶や自然な対応に、日々癒されています。

今までの職歴の中の、学生との出会いは、看護大学での勤務でした。学生との臨床実習での経験は、印象的な思い出の一つです。学生達が、看護の現場で直面する出来事に思い悩んだり、感激したりしながら、どんどん成長していくのを目の当たりにすることができます。和泉でも、目標に向かって学ぶ学生から、様々な刺激を頂けることが楽しみです。

保健室では、怪我や体調不良時の対応は勿論、食生活や健康管理面でのご相談でも、お役に立てればと思っています。気軽に立ち寄ってもらえる「開放的な保健室」を目指して参りたいと思いますので、ご指導、ご助言をよろしくお願いします。

略歴

日本赤十字看護大学を卒業後、高松赤十字病院で八年間勤務。在職中に香川大学教育学部教育学研究科で修士課程を修了後、日本赤十字広島看護大学に転勤。その後、産業保健(京セラ株式会社)、地域保健(海老名市役所)に従事。



文部科学省「学生支援推進プログラム」に選定されました

文部科学省では、平成21年度から、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、高等教育の質保証の強化に資することを目的とした「大学教育・学生支援推進事業」を実施しています。

(内訳:【テーマA】大学教育推進プログラム【テーマB】学生支援推進プログラム)

※本学はこの【テーマB】学生支援推進プログラムに応募し、以下の内容により選定されました。

取組名称 学生と卒業生による学びの循環の場「和泉コミュニティ」の形成

取組の概要

全国唯一の「児童福祉学科」単科の短期大学である本学の前身は、児童福祉施設従事者の資質向上のため設立された現任訓練機関であり、建学以来その精神を堅持している。今日まで一貫して保育者養成に取組み、卒業生の保育・福祉分野への専門職就職率は9割を超える。

本学の特徴と強みを更に教育と学生支援に活かすため、経験者・実践者としての「卒業生力」を活用した「和泉コミュニティ」(保育者養成共同体)を形成する。ここでは、従来のインタラクティブ型教育を超えた「学生と卒業生による学びの循環」(①学びにより学生・卒業生双方がエンパワーされるサイクル、②支えられて社会に出た学生が後輩の支援者となる永続的サイクル)を創出する。また本コミュニティでは携帯電話を活用し、学外における学生・卒業生の交流機会、支援機能等を担保する。

本取組により、a.学生の学士力 b.卒業生のコンピテンシー c.大学の教育力の向上を目指す。

日本キリスト教児童福祉連盟総会・研修会を開催して

学校法人クラーク学園 理事／バット博士記念ホーム 園長 宮本 和武

2009年6月30日(火)～7月1日(水)、日本キリスト教児童福祉連盟(以下「当連盟」という)の総会・研修会が、学校法人クラーク学園和泉短期大学・和泉福祉専門学校(以下「本学園」という)を会場に開催された。当連盟は、嘗て米国CCFの援助を受けたキリスト教主義施設の施設長が中心となり結成された会である。主に児童福祉施設である児童養護施設、母子生活支援施設、乳児院、保育所、障がい児施設など91団体と4名の個人会員が加盟している。団体会員である本学園で開催をする経緯があるのは、団体会員で学校は本学園のみである。米国CCFの世界各地での支援で学校を作ったのも、日本では本学園のみである。そこに、米国CCFのミッション(使命)があったと言っても過言ではない。本学園は、私が属しているバット博士記念ホームと一緒に米国CCFによって創立され、現在は社会福祉法人と学校法人に分かれているが、根は一つである。米国CCFは、戦後の困窮した時代に日本の児童福祉のために25年間に渡り約25億円の援助を行い、多くの児童の福祉のために貢献してきた。援助終結を機に、1974年にCCF感謝会で当連盟は結成された。現在は、それぞれの加盟施設は独自の法人で運営をしているが、CCFの援助を受けていた当時の状況を知る人は少なくなったが、代々の施設長に語り継がれていることは、当連盟を憶え必ず参加をるようにと言われていると語ってくれた施設長がいる。感謝の心を忘れずに、私たちの隣人にできることをすることとして始まった事業がCCWA(国際精神里親運動部)であり、アジアのフィリピンへの援助開始であったことは忘ることはできない。

今回の連盟の研修会は、初日は、開会式挨拶を、安藤能成牧師(バット博士記念ホームチャプレン)が行ない、基調講演は「キリスト教児童福祉実践と今日的課題」を稻本誠一氏より、長年に渡る児童福祉の現場と当連盟の理事長としての経験より語つていただいた。その後、分科会に分かれて日頃の実践について討議を行った。2日目は、祈祷会で始まり伊藤学長が行なった。次いで、総会が行われ通常の審議の他に「日本キリスト教児童福祉連盟2009年宣言」を採択した。今後の加盟施設におけるミッション(使命)を明らかにしたいと1年間かけて検討したものである。その後、特別講演「米国CCFの遺産と展望」を宮本より語った。その後、閉会挨拶を本学園深町理事長より行ない、昼食をもって終了した。その後バット博士記念ホームを見学希望者が訪ねてくれた。中に、玉川保母専門学院1期の卒業生でバット博士記念ホーム保母として携わった前田清子氏が久しぶりに訪ねてくださったことは大きい。今回の連盟総会・研修会を本学園で実施できたことは意義深く、本学園の多くの人々の協力があった事に感謝をしたい。

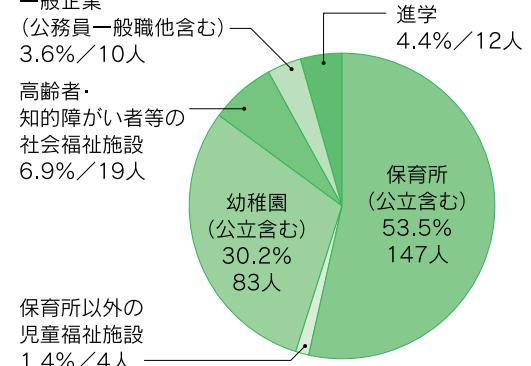


短期大学の進路状況報告

一人の女性が生涯に産む子どもの数の推計値である2008年の合計特殊出生率が、過去最低となった2005年の1.26から三年連続で上昇し、前年比0.03ポイント増の1.37となったことが、厚生労働省の人口動態統計で分かりました。要因としては30代の出生率上昇などですが、出生数自体は横ばいで少子化は続いていると見られ、今後の出生率の動向は不明で、やはり長期的に人口減少傾向が続くと見なされています。また、保育所における待機児童等の諸問題や就職の採用に関する雇用形態の変化、既卒者の転職数の増加なども含め、今後の就職指導に影響を与えるのは必至の状況となっています。しかし、本学においては本年3月の卒業生300名のうち、保育・福祉・幼児教育職として253名が就職し各分野でのこれから活躍が期待されています。

2008年 進路決定者数(非常勤等含む)

2009年3月31日現在
合計:275人



2008年度決算書の概要

2008年度決算が5月22日(金)開催の評議員会ならびに理事会で承認されました。その概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「消費収支計算書」、財政状態を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2008年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入の総額は2,674,258千円となりました。これに対し、支出した資金の総額は、758,881千円となり、2009年度に繰り越される支払資金(現金預金)は、2007年度に比べて104,927千円増加して、1,915,377千円となりました。

消費収支計算書は、当該年度の収入及び支出の経費の均衡状態を表すことを目的にしています。収入の部においては、2008年度は学生数の大幅な減少により学生生徒等納付金が前年度比約145,600千円減収となりました。補助金収入は、特別補助において、本学の特色ある教育が評価され前年度より6,400千円増額になりました。資産運用収入は、世界金融危機による金利の低下がありましたが、横浜市債等の公募債券の安定した金利により前年度より6,300千円増収となりました。今後も健全と安全性を重視した運用を心がけていきます。帰属収入合計は、880,823千円となりました。帰属収入の約85%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本学園の運営に甚大な影響を及ぼすことになります。帰属

収入は、学校法人の純資産を増加させる収入です。この帰属収入から第1号基本金である学校法人を継続的に保持していくための2008年度取得の固定資産(建物、構築物、機器備品等)4,771千円と第3号基本金として、奨学基金の果実から奨学事業費を控除した5千円を組み入れることにより消費収入の部合計は、876,047千円です。一方、専門学校の公用車等を除却したことにより、所定の手続きを経て2,206千円の基本金の取り崩しを行いました。

支出の部においては、支出の大半を占める人件費は、470,039千円で帰属収入に対する人件費比率は53.3%になりました。教育研究経費は、183,759千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めました。管理経費は、総額で123,891千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的な支出を図り、経費削減に努めました。消費収入の部合計876,047千円から消費支出の部合計778,405千円を控除した収支差額は、97,642千円の消費収入超過となりました。

貸借対照表は、2008年度末における当法人の資産、負債、基本金等の状態を示すものです。なお減価償却対象資産(建物、構築物、機器備品等)については取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の総額は8,158,157千円です。前受金と退職給与引当金が大部分である負債の総額432,297千円を控除した純資産総額は、7,725,860千円で2007年度より102,418千円増加しました。

2009年度予算書の概要

学校法人会計基準に基づく予算には、資金収支予算書と消費収支予算書があります。

資金収支予算書の資金収入の部合計は、2,671,980千円で、資金支出合計802,859千円との差額である1,869,121千円が次年度への繰越支払資金(現金預金)になります。前年度繰越支払資金より46,256千円減少する見込みです。

消費収支計算書の帰属収入合計は706,010千円です。専門学校が閉校となり、短期大学専攻科(1年制定員20名)として改組転換予定であり、学生数が大幅に減少するため前年度決算額に対して174,813千円減収になります。基本金組入額は、7,922千円により消費収入合計は、698,088千円です。これに対して消費支出は、767,908千円で、69,820千円の消費支出超過になる見込みです。

消費収支計算書の財務比率の推移(2005年~2009年)



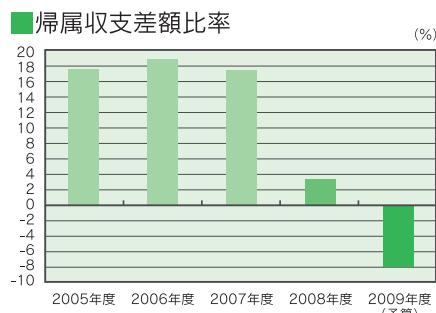
帰属収入に対する人件費の割合。50%以内が目安。人件費は、消費支出の中でも最大の比重を占める支出。人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は、最重要課題です。



帰属収入に対する消費支出の割合。学生数の減少が顕著に現れる比率。目標値は80%。90%以上になると経営が困難になるとと言われている。2009年度は100%を超えており、100%以内に抑えないと施設設備の整備が出来なくなる。



学生生徒等納付金収入に対する人件費の割合。100%以内が目安。人件費は、学生生徒等納付金の範囲内に納まっていること。本学園の数値が低いのは、帰属収入に占める学納金の構成比率が高いためです。



帰属収入から消費支出を引いた差額の帰属収入に対する割合。純利益を表す。比率がプラスになると自己資金が充実されている。プラス分から将来の施設設備の取替更新を行う。マイナスが何年も継続して行くと経営は窮屈し、資金が枯渇する。最低10%が目安で基本金組入れを10%以内に抑える。

資金収支計算書(概要)

■収入の部

科 目	(単位:千円)	2008年度決算額	2009年度予算額
学生生徒等納付金収入	751,880	625,010	
手数料収入	9,371	8,950	
寄付金収入	1,792	150	
補助金収入	54,878	42,100	
国庫補助金	48,149	40,000	
地方公共団体補助金	6,729	2,100	
資産運用収入	27,328	25,800	
事業収入	2,293	3,500	
雑収入	32,981	500	
前受金収入	204,700	213,950	
その他の収入	38,603	40,293	
資金収入調整勘定	△260,018	△203,650	
前年度繰越支払資金	1,810,450	1,915,377	
資金収入合計	2,674,258	2,671,980	

■支出の部

科 目	(単位:千円)	2008年度決算額	2009年度予算額
人件費支出	475,228	433,255	
教育研究経費支出	109,887	124,680	
管理経費支出	116,408	105,004	
施設関係支出	6,835	4,563	
設備関係支出	2,470	12,669	
資産運用支出	35,512	79,515	
その他の支出	16,691	17,244	
[予備費]		30,000	
資金支出調整勘定	△4,150	△4,071	
次年度繰越支払資金	1,915,377	1,869,121	
資金支出合計	2,674,258	2,671,980	

消費収支計算書(概要)

■消費収入の部

科 目	(単位:千円)	2008年度決算額	2009年度予算額
学生生徒等納付金	751,880	625,010	
手数料	9,371	8,950	
寄付金	2,092	150	
補助金	54,878	42,100	
国庫補助金	48,149	40,000	
地方公共団体補助金	6,729	2,100	
資産運用収入	27,328	25,800	
事業収入	2,293	3,500	
雑収入	32,981	500	
帰属収入合計	880,823	706,010	
基本金組入額合計	△4,776	△7,922	
消費収入の部合計	876,047	698,088	

■消費支出の部

科 目	(単位:千円)	2008年度決算額	2009年度予算額
人件費	470,039	429,549	
教育研究経費	183,759	196,092	
(減価償却額)	(73,873)	(71,412)	
管理経費	123,891	111,883	
(減価償却額)	(7,081)	(6,879)	
資産処分差額	716	384	
[予備費]		30,000	
消費支出の部合計	778,405	767,908	
当年度消費収入超過額	97,642		
当年度消費支出超過額		69,820	
前年度消費収入超過額	1,887,044	1,986,892	
基本金取崩額	2,206	0	
翌年度消費収入超過額	1,986,892	1,917,072	

貸借対照表(決算概要)

2009年3月31日

資産の部

科 目	(単位:千円)	本年度末	前年度末	増 減
固定資産		6,207,572	6,253,189	△45,617
有形固定資産		3,523,206	3,596,105	△72,899
土地		2,018,901	2,018,901	0
建物		1,323,401	1,377,986	△54,585
構築物		53,607	56,842	△3,235
教育研究用機器備品		37,246	50,674	△13,428
その他の機器備品		4,433	5,594	△1,161
図書		82,518	81,768	750
建設仮勘定		3,100	4,340	△1,240
その他固定資産		2,684,366	2,657,084	27,282
電話加入権		690	690	0
施設利用権		1,914	1,081	833
奨学生付金		2,243	1,723	520
定期預金		2,817	2,810	7
減価償却引当特定資産		31,500	21,000	10,500
退職給与引当特定資産		2,061,620	2,036,637	24,983
施設拠充引当特定資産		219,546	229,112	△9,566
第3号基本金引当特定資産		360,000	360,000	0
第3号基本金引当特定資産		4,036	4,031	5
流动資産		1,950,585	1,832,772	117,813
現金預金		1,915,377	1,810,450	104,927
未収入金		31,808	18,393	13,415
貯蔵品		3,025	3,426	△401
前払金		375	503	△128
資産の部合計		8,158,157	8,085,961	72,196

■負債の部

科 目	(単位:千円)	本年度末	前年度末	増 減
固定負債		214,203	219,392	△5,189
退職給与引当金		214,203	219,392	△5,189
流动負債		218,094	243,127	△25,033
未払金		3,647	4,580	△933
前受金		204,700	228,210	△23,510
預り金		9,747	10,337	△590
負債の部合計		432,297	462,519	△30,222

■基金の部

科 目	(単位:千円)	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金		5,661,932	5,659,367	2,565
第3号基本金		4,036	4,031	5
第4号基本金		73,000	73,000	0
基金の部合計		5,738,968	5,736,398	2,570

■消費収支差額の部

科 目	(単位:千円)	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額		1,986,892	1,887,044	99,848
消費収支差額の部合計		1,986,892	1,887,044	99,848

科 目	(単位:千円)	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基金の部		8,158,157	8,085,961	72,196

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額 2,136,121千円

2. 徴収不能引当金の合計額 0千円

3. 翌会計年度以降の基本金組入額 0千円

今後の財政見通し

少子化による18歳人口の減少、4年制大学等の保育士養成校の増加、主務官庁による入学定員遵守の指導等、本学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増し、2008年度は私立大学の47.1%(266校)、短期大学の67.5%(243校)が定員割れの厳しい状況です。

帰属収入の約85%を学生生徒等納付金に依存している現状において、本学は、入学者の定員確保をしていかなければなりません。また、外部資金等の導入による経営戦略として、文部科学省の競争的資源配分の獲得に向けて本学独自の教育の質の向上を図るために2009年度「学生支援推進プログラム」の申請を行い、選定されました。一方、教育研究活動の維持向上と全般的な支出の削減とのバランスを保ちながら、一層の財政基盤の強化を図っていかなくてはなりません。

2009年度は、施設設備として学内電話交換機及び電話機の取り替え、ステンドグラス2枚の設置等を行う予定です。また、学生の教育環境を高めるために図書館内をリニューアルをし、閲覧用の机・椅子の取り替えを行います。

また、2009年度も2008年度に引き続き外部機関の(株)日本格付研究所により学校法人の格付け(BBB/安定的)の更新をいたします。

現在、学内には「将来計画構想委員会」を設置して短期と中期の課題を検討しています。2009年度は、「21世紀のクラーク学園」-新たなる出発-と定め建学の精神、教育の理念、スクールモットー「愛と奉仕」に基づいて学園一体となって将来計画を策定しています。

入学定員確保という厳しい状況下において、学園の環境整備充実のために将来にわたり支出要因は多く、さらなる飛躍を目指して、今後も業務改善に取り組み、教職員一人ひとりがコスト意識を持ち、一層の合理的・効率的な支出に努め資金の有効活用をしていきます。

クラーク学園は、大学の社会的責任を果たしつつ、本学園に求められている社会的な要請に応じ、社会からの信頼を得るために、積極的に情報を開示し、説明責任を果たし、大学の教育・研究の充実を図り、今後も特色ある研究や特化した教育により、さらに魅力あるキャンパスを創つて参ります。

(クラーク学園 事務局次長 土橋 正文)

卒業生・在学生家族推薦入学

出願期間 10月15日(木)～10月21日(水)
選考日 11月1日(日)
選考方法 個人面接、書類審査の総合評価

iAO入試

面談日程 II期 8月29日(土)・9月19日(土)・10月17日(土)
出願許可 II期 10月19日(月)
出願期間 II期 10月21日(水)～10月28日(水)
入学手続 II期 11月2日(月)～11月9日(月)

専門高校推薦入学

出願期間 10月15日(木)～10月22日(木)
選考日 11月3日(火)
選考方法 作文、個人面接、書類審査の総合評価

一般入試

出願期間 2010年1月8日(金)～1月22日(金)
試験日 2月1日(月)
試験方法 作文、個人面接の総合評価

キリスト教者推薦入学

出願期間 10月15日(木)～10月21日(水)
選考日 11月1日(日)
選考方法 個人面接、書類審査の総合評価

公募推薦入学

出願期間 10月15日(木)～10月22日(木)
選考日 11月3日(火)
選考方法 作文、個人面接、書類審査の総合評価

社会人特別選抜

出願期間 10月28日(水)～11月5日(木)
選考日 11月14日(土)
選考方法 個人面接、書類審査の総合評価



詳細はホームページをご覧ください。

和泉短期大学

検索

オープンキャンパス開催日程

2009年8/22,9/12,10/24,10/25 2010年1/9,3/24 詳細はホームページをご覧下さい。

石垣島トライアスロン2009に短大2年生・森 晴子さんが出場しました

シドニーワールドカップ以後、オリンピックの正式種目となったトライアスロンは、水泳／自転車／ランニングを連続して行う競技です。2年生の森晴子さんはこの選手で、4月26日(日)開催の『石垣島トライアスロン2009』に出場しました！(一般:エイジA組 スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)結果は女性150名中12位という好成績でした。自己ベスト更新は惜しくも逃したものの、森さんの挑戦は、これからもまだまだ続きます！今回も、和泉で学びながらチャレンジを続けている森さんに、大会前に競技やふだんの練習についてお伺いしました。



Q.トライアスロンを始めたきっかけは？

A.小学校のときの先生が、トライアスロンをされていてとても憧れています。以前卒業した大学にトライアスロンのサークルがあり、先輩たちが優しかったので入部して始めました。

Q.普段の練習メニューを教えて下さい。

A.今朝も、自宅(町田市)から江ノ島まで、自転車で走ってから短大に来ました。(笑)(片道約40km→往復80km!)ランニングは、時間があるときは10kmぐらい。水泳は、市のプール(50m)で3kmぐらい泳いでいます。実は水泳は一度も習ったことがありません。

Q.大会に向けての抱負をお願いします。

A.昨年、一昨年と続けて10位の成績だったので、去年の自分に勝つためにもぜひ10位以内をめざしたいです。今年2月に現場実習があり、練習が思いどおりできなかつたので、今どれくらい力が戻っているかは、やってみないと分りません。昨年はかなり体重が落ち、体調が万全ではありませんでしたが、今回は、体調・精神面ともに良い状態です！

Q.水泳・自転車・ランニングのなかで一番つらい種目は何ですか？

A.3種目すべてが、その日の天候や風などに左右されるため、一概にどれが大変とは言えません。逆にそれが、トライアスロンの楽しさや面白さもあります。

創立50周年記念事業募金・教育環境充実資金募金

寄付者ご芳名(順不同・敬称省略)

阿部 孝	川瀬 富枝	松本 文生	佐藤 仁美
中村 正佳	木下 誠	本橋 雅人	諏訪 雄大
鈴木 晃地	栗原 芳江	門馬 かおり	山本 順子
秋山 実	河野 憲一	柳本 朝男	閑庭ソフトクラブ
市川 徹也	佐藤 利和	横浜 佳代子	
井上 洋一	莊司 修三	米山 竜二	
岩藤 五男	杉山 喜亮	脇田 和彦	
江波戸 宗生	鈴木 治	渡辺 充郎	
大塚 健志	高橋 義男	渡邊 和之	
岡田 康男	丹伊田 孟	秋山 拓也	
奥西 貞夫	花井 博	大久保 理代	
尾股 忠則	平野 良三	大澤 愛	

この度は、クラーク学園創立50周年記念事業募金・教育環境充実資金募金の趣旨にご賛同賜り、多大のご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。

2008年6月1日から、2009年5月29日までにご寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告いたします。

なお、当局が受理しました日付で処理いたしておりますので、多少のずれが生じている方もあると存じますが、何卒ご了承をお願いいたします。

事務局

2008年6月1日～2009年5月29日
合計件数:40件
合計金額:216,000円

2009年5月29日までの総累計
累計件数:650件
累計金額:30,489,111円

人事

法人

△ 就任 評議員 原田 康子(09.5.22)
△ 退任 評議員 藤川 いづみ(09.3.31)

短期大学

△ 採用(09.4.1)
松浦 浩樹 準教授
齋藤 純 専任講師
野尻 美枝 助教
西土井 広美 看護師

△ 就任(09.4.1)

武石 宣子 教務部長兼第三者評価連絡
調整担当者(ALO)
佐藤 守男 学生部長
横川 剛毅 宗教部長
櫻井 奈津子 図書館長
鈴木 敏彦 入試広報部長
中村 美津子 実習・ボランティアセンター長

△ 升任(08.10.1)

佐藤 守男 教授
△ 升任(09. 4.1)
井狩 芳子 教授
平田 美智子 準教授
横川 剛毅 準教授
曾根 真理子 広報涉外・
庶務ユニットサブリーダー

△ 異動(09.4.1)

渡辺 角男 経理・施設ユニットサブリーダー
三好 順平 学生支援ユニット主任
今泉 治子 広報渉外・庶務ユニット主任
木村 文紀 経理・施設ユニット

△ 退職(09.3.31)

藤川 いづみ 准教授
伊藤 美佳 専任講師
加藤 正春 経理・施設ユニットサブリーダー

専門学校

△ 退職(09.3.31)
出村 由利子 専任教員

お慶び

△誕生 福森 静氏(学生相談室カウンセラー)
長男 隼人(はやと) 08.7.17
△結婚 矢野 由佳子氏(短期大学専任講師)
(08.8.18)

表彰

全国保育士養成協議会
平成20年度教職者表彰者 武石 宣子

訃報

△故 河井 瞳子氏
(本学園元理事 河井 希充氏 奥様 08.11.8)
△故 長尾(萩原)満里氏
(本学元非常勤講師 09.6.9)